

このたびは、ワイヤレスアンプをお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

目次

安全上のご注意	1 ~ 4
特長	4
各部の名称と説明	5 ~ 6
保護カバーについて / 収納部ふたについて	7
使用電源について	8 ~ 9
ワイヤレスチューナー部の説明	10 ~ 13
別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法	14
操作のしかた	15 ~ 16
ハウリングとデッドポイントについて	16
接続例	17
点検方法	18
定格	19
外観寸法図	20
連絡先のご案内	20
保証書	20

安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に必ず、この取扱説明書の「安全上のご注意」と取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



、記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がする、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。



プラグをコンセントから抜く

分解 / 改造はしない

火災・感電の原因となります。修理や点検は、販売店などにご依頼ください。



異物を入れない / 濡らさない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。(雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。)



定期点検を実施する

専門の業者(技術者)による定期点検を実施してください。特に経年劣化には充分ご注意ください。異常があれば、ただちに使用をやめ、販売店などにご連絡ください。





警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しない 火災・感電の原因となります。	
専用ニカド蓄電池(WBT-2000)以外の蓄電池は使わない 万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。	
この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。	
この機器を水滴のかかる場所に置かない 中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。	
この機器の上でろうそく等の炎が発生しているものを置かない 火災の原因となります。	
電源コードを傷つけない 電源コードの上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。	
電源プラグは根元まで確実に差し込む 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。	
電源プラグのほこりなどは定期的に取り除く プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。定期的に電源プラグを抜き、乾いた布などで拭きとってください。	
乾電池は、充電しない 電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となります。	
乾電池のかわりに充電式電池は使わない 万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。	
屋外で使用中に雷が鳴り出したら、使用しない 落雷の原因となります。使用を中止し、機器から離れてください。	
表示部が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しない 事故や火災、感電の原因となります。そのような場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などにご連絡ください。	
ワイヤレスマイクを危険作業の誘導などに使用しない 場所や距離や周囲の雑音条件によっては電波が到達しなかったり、瞬間的に電波が遮られたりして放送が途切れたりして、作業の指示などが完全には伝達できない場合があります、事故の原因となることがあります。	



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

水・湿気・湯気・ほこり・油成分(油煙/油粒)などの多い場所で使用しない 火災・感電・故障・破損の原因となることがあります。	
不安定な場所に置かない 落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	
重量に耐える場所に設置をする 落下や転倒などでけがや破損の原因となります。	
電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけない コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	
異常に温度が高くなる場所に放置しない 窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。	

注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
火災の原因となることがあります。



お手入れの際は電源プラグをコンセントから抜く
感電の原因となることがあります。



電池は極性を正しく挿入する
電池を機器内に挿入する場合、極性表示に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



指定以外の電池は使用しない
新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



電池は、金属性の物と一緒に携帯、保管しない
電池は、金属性のボールペン、コイン、ヘアピンなどと一緒に携帯、保管しないでください。電池がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてない
電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



長期間使用しない、交流100Vで使用のときは電池を取り出ししておく
電池から液がもれて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一、もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。



電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。



樹脂加工部に対してベンジンやシンナーなどの溶剤を使用して清掃しない、
また、タバコなどの火を近づけない
部品変形により故障して、火災などの原因となることがあります。



長時間音が歪んだ状態で使わない
スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。



濡れた手で、電源コードを抜き差ししない
感電の原因となります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災、感電の原因となります。必ずプラグを持って抜いてください。



移動するときは、コード類を傷つけない
移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



保護カバーを開けたまま使用しない
操作時以外は保護カバーを開けたまま使用しないでください。転倒などでけがや破損の原因となります。



この機器に乗ったり腰掛けたりしない
特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。



廃棄は専門業者に依頼する
燃やすと化学物質などで目を傷めたり、火災ややけどの原因となります。



オーディオ機器、外部スピーカ等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。



1年に一度くらいは内部の掃除を工事店などにご相談ください。内部にほこりのたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨時の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については工事店などにご相談ください。



設置・使用上のご注意

本機の上面、側面、及び後面に10cm以上の空間を確保して使用してください。

本機を水滴または飛沫のかかる場所で使用しないでください。

使用中に強い衝撃や振動を加えないでください。音切れや故障の原因となることがあります。

本機を雑音発生の原因になる機器の近くには設置しないでください。

高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器など。

電源について

電源スイッチを「切」にただけでは、電源は遮断されません。

電源を遮断するときは、つぎのようにご対応ください。

電源プラグをコンセントから抜いてください。

(機器は、容易に遮断の操作ができるようコンセントの近くに設置してください)

乾電池を取り外してください。

ニカド蓄電池のコネクターを本体の接続コネクターから抜いてください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

お客様の故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など

本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害

本製品のお客様ご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害

本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害

第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

お願い

本機を長期間お使いの場合

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

- ・外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記 ~ の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り(使用中)販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。

特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

煙りが出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。

本機に触れるとビリビリと電気を感じる。電源を入れても音が出ない、その他の異常・故障がある。

特長

高音質、高出力

- ・大口径ウーハーと高音域ツイーターを搭載した2ウェイスピーカーシステムは明快な音質で音声、音楽をフレッシュサウンドで奏でます。

マイク4本(最大)同時使用可能

- ・3チャンネルのワイヤレスマイクと有線マイク1本が同時使用でき、予備入力端子とのミキシングも可能です。(別売のワイヤレスチューナーユニット2台を増設の場合)

シンセサイザー方式チューナー採用

- ・チューナーは周波数安定度の高いシンセサイザー方式を採用し、13チャンネルの中から任意のチャンネルを選択でき混信のトラブルがなくご使用になれます。

3電源方式のポータブルタイプ

- ・電源はAC100Vと乾電池(単一形)8本、ニカド蓄電池を使用できます。乾電池は交換が簡単にできるカートリッジ式を採用しています。

保護カバーで様々なトラブルを防止

- ・操作部と各種プレーヤー部はクリアタイプの保護カバーでしっかりガード。トラブルを気にせず使用できる安心設計です。

各部の名称と説明（後面）

10頁の「ワイヤレスチューナー部の説明」をご覧ください。

ハンドル

本機を移動させるときはハンドルを起こして持ち運んでください。移動時以外は、ハンドルをねかせておいてください。

blankパネル

（ユニット取付部）
別売のCDプレーヤーユニットを組み込みます。組込まれるユニットの取扱説明書をご覧ください。

blankパネル

（ユニット取付部）
別売のSDレコーダーユニットを組み込みます。組込まれるユニットの取扱説明書をご覧ください。

収納部ふた

7頁の収納部ふたについての説明をご覧ください。

コード通し穴

AC電源コード、各種接続コード接続時はこの通し穴から引き出してください。

ふたストッパー

矢印（ ）の方向に押さえますと、収納ふたが開きます。

保護カバー

操作時は保護カバー下部を固定する位置まで持ち上げてください。保護カバー内部に埃や水滴の浸入を防ぐため、操作中以外は保護カバーを確実に閉めてご使用ください。7頁の「保護カバーについて」の説明をご覧ください。

音質調節つまみ

右まわりで高音が強調され、左まわりで減衰されます。中心のクリック位置が標準です。すべての入力に共通して音質調節がおこなわれます。

予備音量調節つまみ

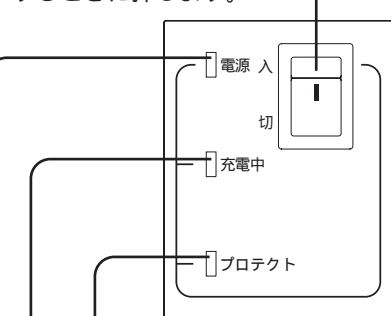
収納部内のモノラル予備入力ピンジャックに接続された機器の音量が調節できます。

マイク音量調節つまみ

収納部内のマイク入力ジャックに接続されたマイクホンの音量が調節できます。

電源スイッチ

ワイヤレスアンプの電源を「入」切」するときに押します。



プロテクト表示灯

本機の増幅部の温度が上昇したとき、外部スピーカー出力が短絡したとき、電池が異常に消耗し動作限界に近づいたときに点灯します。また点灯時は本機の動作が停止します。18頁の「点検方法」法」をご覧ください。

充電表示灯

別売ニカド蓄電池（WBT-2000）の充電中には緑色に点灯します。9頁の「別売ニカド蓄電池でご使用の場合」の説明をご覧ください。

電源表示灯

本機の電源が入ると緑色に点灯します。また電池でご使用のときは、電池が消耗すると赤色に点灯しますので、新しい電池と交換してください。電源を入れたとき一瞬赤色に点灯しますが異常ではありません。

各部の名称と説明（収納部）

乾電池収納部

本機を乾電池で使用する場合は、乾電池の入った乾電池ケースを入れてください。
(9頁の「乾電池でご使用の場合」をご覧ください。)

電池ケース

本機を乾電池で使用する場合は、このケースに単一乾電池(R20P/LR20)8本を極性表示に従って入れてください。
(9頁の「乾電池でご使用の場合」をご覧ください。)

蓄電池収納部

10頁の「別売ニカド蓄電池でご使用の場合」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー部

出荷時は、グループ/チャンネル番号「C11」に設定されています。グループ/チャンネル番号の変更をされる場合は12頁の「チューナー部の周波数設定のしかた」の項をご覧ください。また別売のワイヤレスチューナーユニットを増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

蓄電池接続コネクタ

別売ニカド蓄電池MBT-2000を接続してください。(10頁の「別売ニカド蓄電池でご使用の場合」をご覧ください。)

マイク入力ジャック

(-56dBV 600 不平衡)
有線マイクのプラグを接続してください。

モノラル予備入力ピンジャック

(-22dBV 10k 不平衡)
①プレーヤーなどを接続してください。ステレオ機器の場合は両方のジャックに接続、モノラル機器の場合はいずれかのジャックに接続してください。

ライン出力ジャック

(0dBV 1k 不平衡)
カセットデッキなどを接続してください。

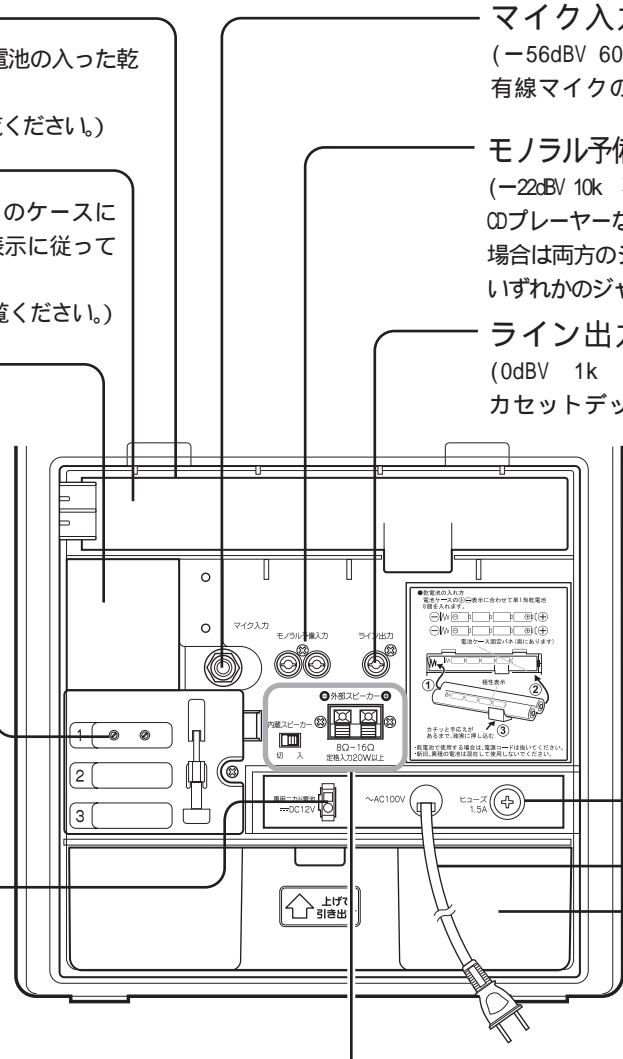
ヒューズホルダー

ヒューズを取り換える場合は、必ず規定のヒューズと交換してください。

警告 決められたヒューズを使う。規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

AC電源コード

AC100Vコンセントに接続してください。収納部ふたの穴からコードを引き出してください。
(「~AC100V」の表示は、電源の種類と電圧を表わす表示です。)



外部スピーカー接続端子

外部スピーカーを接続してください。スピーカー接続コードを下図の要領で接続してください。

内蔵スピーカー切換スイッチ

内蔵スピーカーを鳴らすときは「入」側でご使用ください。外部スピーカー接続時など内蔵スピーカーを鳴らさないときは「切」側にスイッチを切り換えてください。

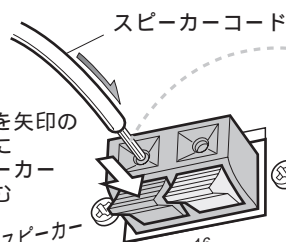


ご注意

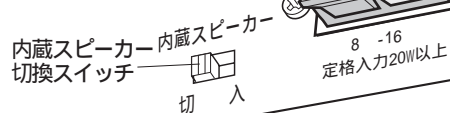
外部スピーカーは定格入力20W以上で、インピーダンスが8~16のものを使用してください。
スピーカーコードは0.75mm²のより線使用時で10m以内、2.0mm²のより線使用時で20m以内の長さを目安に使用してください。

適合電線:
0.75mm²~2.0mm²
のより線

押しボタンを矢印の方向へいっぱい押しながらスピーカーコードを差し込む



スピーカーコードの末端処理方法
9~11mm



注) 外部スピーカーを接続しないときに内蔵スピーカー切換スイッチを「切」側にしていると音が鳴りません。必ず切換スイッチをもとに戻してください。

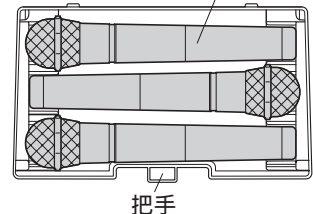
マイク収納ケース



把手を持ち上げて引き出し、マイクロホンなどを収納してください。下図のように弊社製ワイヤレスマイク(WM-3400、またはWM-3000A)本体のみ3本を収納することができます。

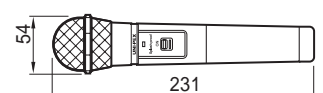
マイク収納例

ワイヤレスマイク



マイク収納ケースの深さを超えて収納しない。また、ワイヤレスマイク収納時は、付属のソフトケースに入れず、マイク収納ケースが引き出せなくなり破損の原因となります。

参考
WM-3400
寸法図



保護カバーについて

保護カバーは保護カバー内部に水滴や埃の浸入や使用中の誤操作などを防ぐことができます。使用中（操作中を除く）または保管時は必ず保護カバーを閉めてください。

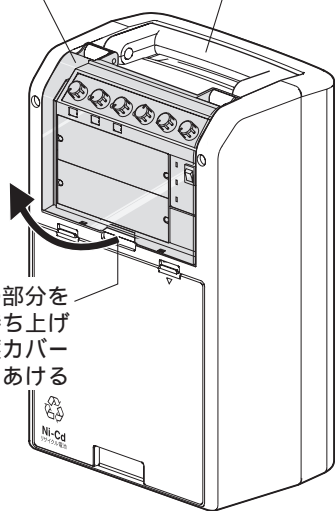
保護カバーを開けるときはゆっくりと最上部の止まる位置まで開いてください。（図1参照）

保護カバーは万一の事故や破損防止のため強い力がかかったときに外れる構造になっています。もし保護カバーがはずれたときは2ヶ所の取付部を差し込み元どおりに取り付けてください。（図2参照）

図 1
保護カバーの開け方

保護カバー
必ずハンドルを倒す

この部分を
持ち上げ
保護カバー
をあける



保護カバーが
止まる位置まで
ゆっくりと開ける

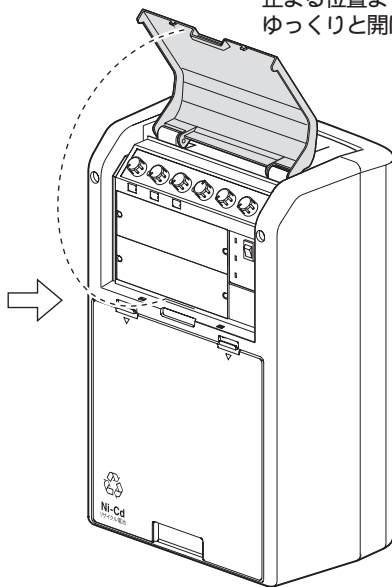
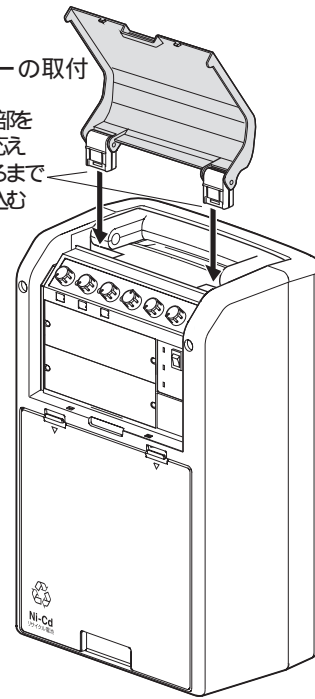


図 2
保護カバーの取付

2ヶ所の取付部を
カチッと手応え
のあるところまで
確実に差し込む



収納部ふたについて

本機は接続や取付、設定などをおこなうときに次の要領で収納部ふたを取り外してください。作業が済みましたら、必ず収納部ふたを確実に閉めてください。（図3参照）

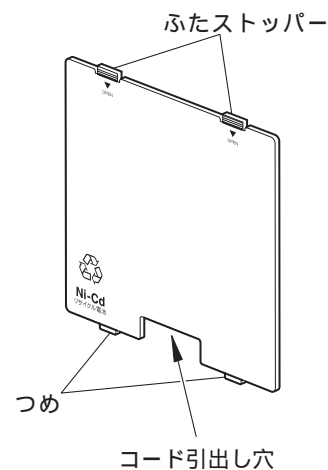
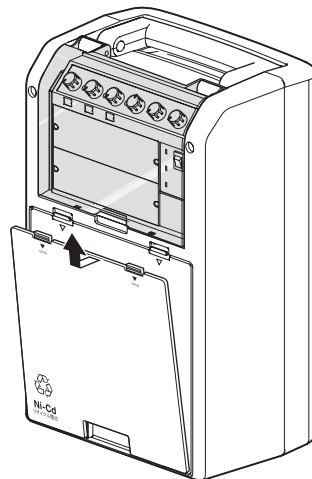
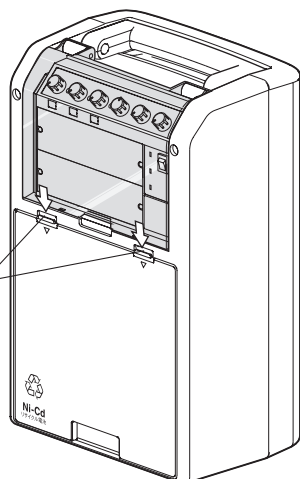
図 3

ふたストッパーを下向きに押さえ、
手前に引きますとふたが開きます。

ふたストッパーを持ち上げ
保護カバーをはずす

収納部下部の穴にふたの
つめを差し込みふたを閉める

ふたストッパー



使用電源について

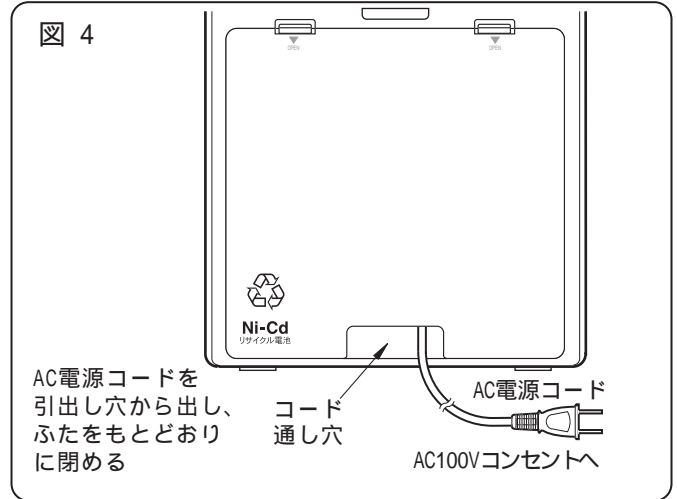
本機はAC100V、単一乾電池(R20P/LR20)、ニカド蓄電池(WBT-2000)の3種類の電源が使用できます。次の使用される電源の説明に従ってご使用ください。7頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

収納部ふたをはずす

7頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

AC電源でご使用の場合

1. AC電源コードを取り出しACコンセントに差し込んでください。
2. AC電源コードを下部のコード引出し穴から出して、もとどおりにふたを閉めてください。7頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。(図4参照)



乾電池でご使用の場合

(単一乾電池R20P/LR20を8本ご準備ください)

警告 作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

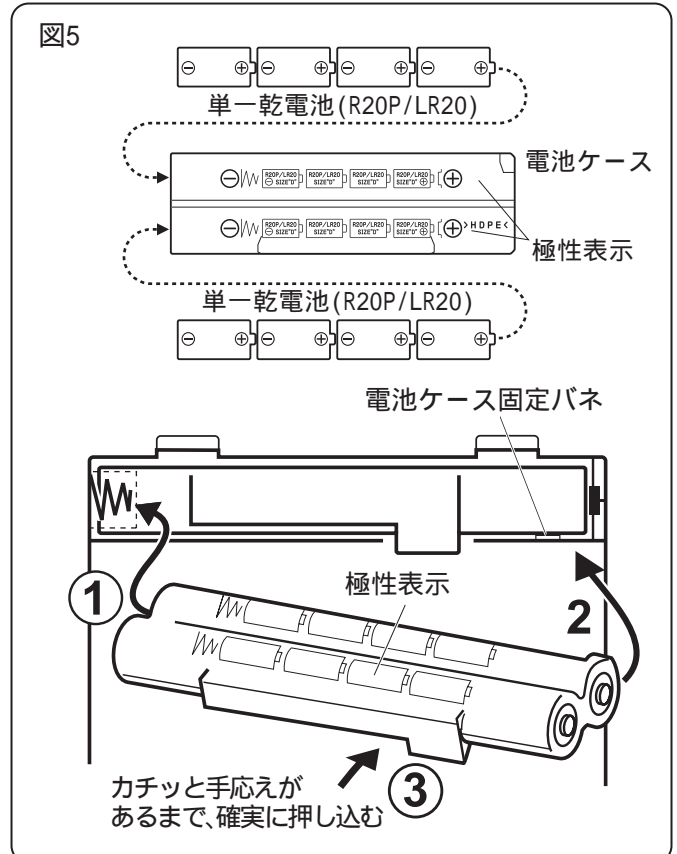
1. 電池ケースの極性表示に従って、電池ケースに単一乾電池(R20P/LR20)8本を入れてください。(図5参照)
2. 電池ケースを乾電池収納部に左端部から挿入してください。(図5参照)
3. もとどおりに収納部ふたを閉めてください。7頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

乾電池を内蔵している場合でも、ACコンセントに電源プラグを差込みますとAC100Vで動作します。

またAC100Vコンセントに差込まない場合は、自動的に内蔵乾電池(DC電源)で動作します。

電源スイッチを切ったときは、電源表示灯が赤色に点灯しながら消えますが、異常ではありません。

できるだけアルカリ乾電池をご使用ください。



ご注意..

本機に乾電池が入っているときは乾電池の飛び出しなどを防ぐために、必ずふたを閉めてください。

乾電池を交換するときは、必ず全部新品に交換してください。乾電池は必ず同じ種類のものをご使用ください。また乾電池の極性は+ - を間違えないようご注意ください。

長時間使用しない場合は乾電池を取り出しておいてください。乾電池をそのまま入れておきますと、乾電池の液もれて本機が使用不能になる恐れがあります。

乾電池の廃棄について

マンガン乾電池、アルカリ乾電池は一般の不燃ごみとして捨ててもよいことになっています。自治体の条例などの定めがある場合には、その条例に従って廃棄してください。

警告 作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。

別売ニカド蓄電池(WBT-2000)でご使用の場合

(別売ニカド蓄電池WBT-2000をご準備ください)

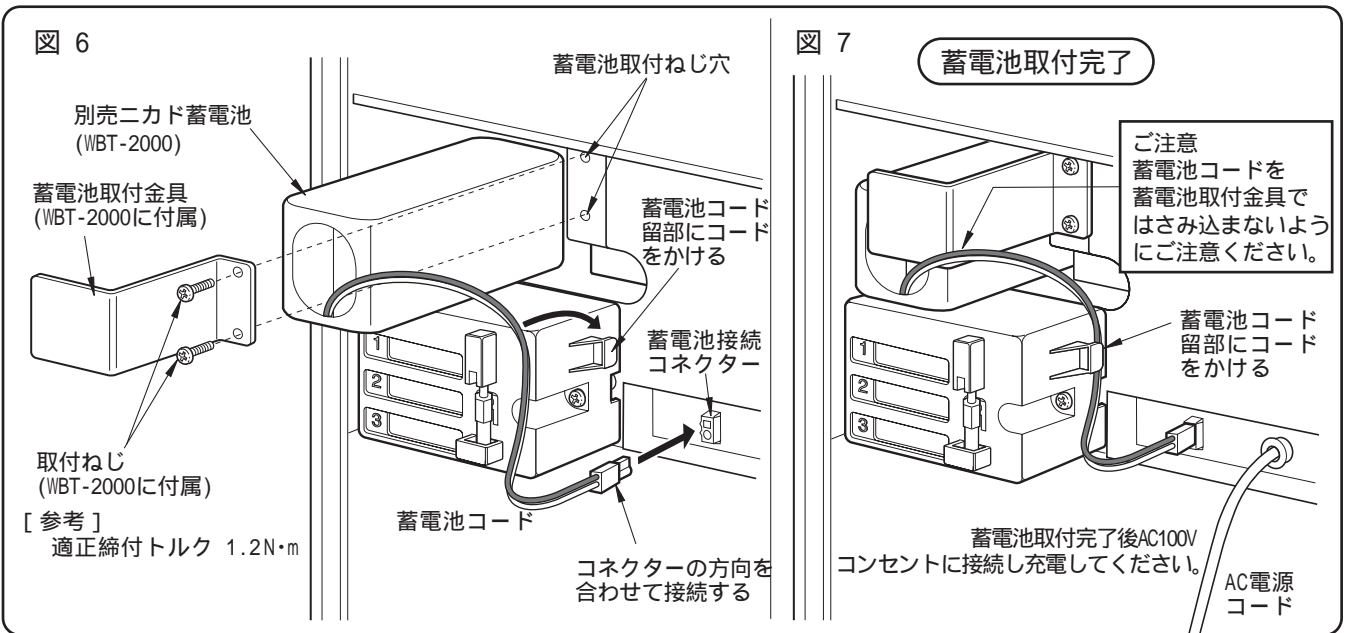
蓄電池の取付のしかた



このマークはニカド電池のリサイクルマークです。ご使用済のニカド蓄電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで、ニカド電池リサイクル協力店にご持参ください。

1. ニカド蓄電池を収納部の左上部の蓄電池収納部に蓄電池取付金具と取付ねじを使用し固定してください。(図6参照)
2. ニカド蓄電池のコネクターを本機の蓄電池接続コネクターに接続してください。コネクターは方向を合わせ、抜け止めのつめが完全にロックするまで差し込んでください。接続コードはチューナーカバー側面にある蓄電池コード留部に引っかけてください。(図6、7参照)

お求めいただいたニカド蓄電池(WBT-2000)は初期状態では充電されていません。下記の説明に従って充電をしてください。

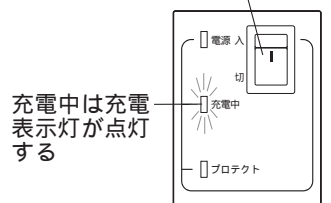


ニカド蓄電池の充電のしかた

1. 本機のAC電源プラグをACコンセントに差し込んでください。充電が開始され充電表示灯が緑色に点灯します(図8参照)
ご注意... 充電中は電源スイッチを入れないでください。電源スイッチを入れますと、本機は動作状態になり充電ができません。
2. 約10時間(常温時)で充電が完了します。充電が完了しても充電表示灯は点灯状態のままです。AC電源プラグをACコンセントから抜き取ってください。

図 8

充電中は電源スイッチを「切」にする



電池寿命の目安

品番	電池種類	アルカリ乾電池	ニカド蓄電池
WA-361A		約30時間	約6.5時間

上記の電池寿命は当社の試験条件(拡声6Wトーンバースト波、ワイヤレスチューナー1ch使用時)で連続使用した場合の値です。大音量でCD再生など、ご使用の条件によっては著しく短くなることがありますのでご注意ください。また、電源表示ランプが緑色に点灯していても出力により音が途切れることがあります。このとき乾電池使用の場合は早めの交換を、ニカド蓄電池使用の場合は直ちに充電されることをお願いします。

ワイヤレスチューナー部の説明

(各部の名称と説明)

ワイヤレスチューナー部

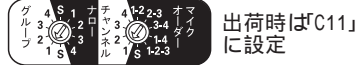
本機の収納部内にワイヤレスチューナー1台が内蔵されています。また別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を2台まで増設することができます。増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

チャンネル設定スイッチ

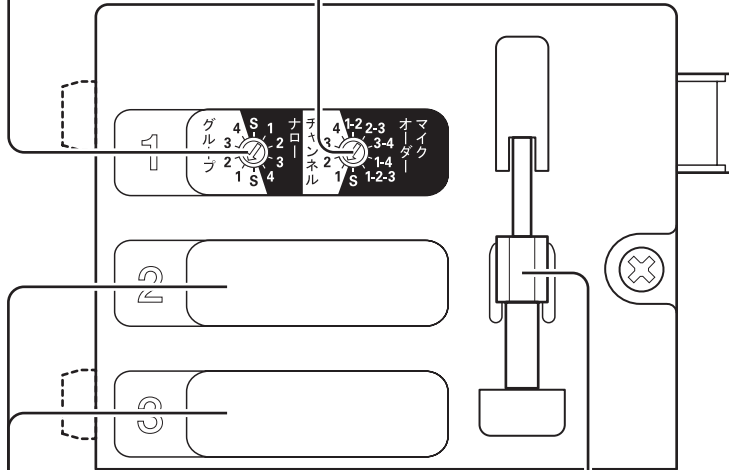
使用するワイヤレスマイクのチャンネル番号と同じ数字に設定してください。

グループ設定スイッチ

使用するワイヤレスマイクのグループ番号と同じ数字に設定してください。



出荷時は、グループ/チャンネル番号「C11」に設定されています。グループ/チャンネル番号の変更される場合は12頁の「周波数設定のしかた」をご覧ください。

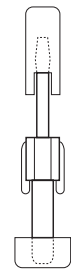


ワイヤレスチューナーユニット取付部(2/3)

別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を増設される場合は15頁の「別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法」をご覧ください。

ワイヤレスチューナー設定用ドライバー

12頁の周波数設定のしかたをご覧ください。



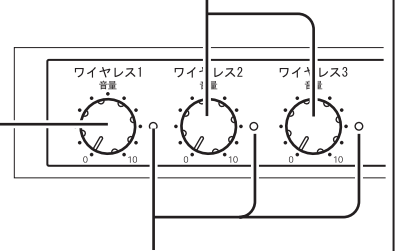
ドライバーを引き上げて取りはずす

ワイヤレスマイク1音量調節つまみ

ワイヤレスマイクの音量を調節してください。

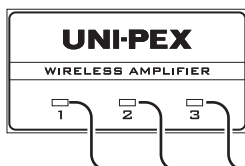
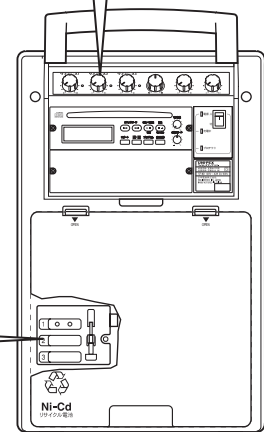
ワイヤレスマイク2/3音量調節つまみ

別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350増設時はワイヤレスマイクの音量を調節してください。



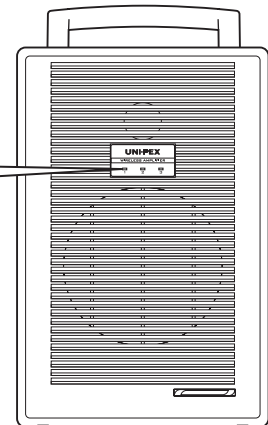
アンテナ受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯します。赤色で早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。(ワイヤレス2、3は別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350増設時に上記と同様に点灯します。)



アンテナ受信表示灯

本機の電源が入りますと赤色に点灯します。電波受信時は緑色に点灯します。赤色で早く点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。(ワイヤレス2、3は別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350増設時に上記と同様に点灯します。)



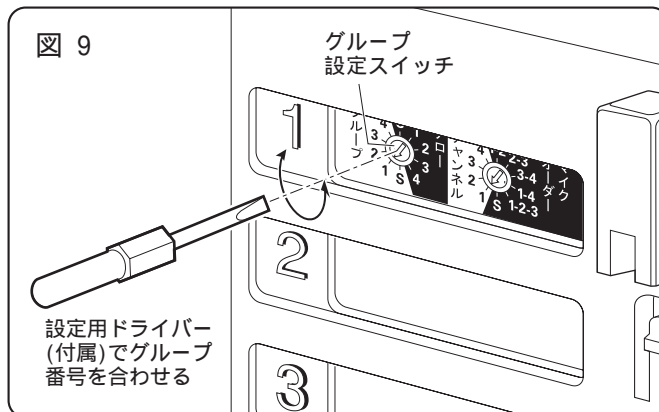
周波数設定のしかた

本機は出荷時に、ワイヤレスチューナー部のグループ / チャンネル番号を「C11」に設定しています。
周波数設定を切り換える場合は、付属の設定用ドライバーを使用し、次の要領でおこなってください。

(図9/10参照)

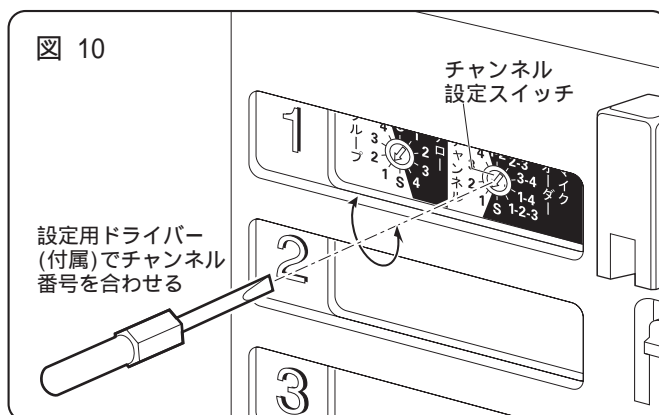
1. グループ番号を設定する

グループ設定スイッチの矢印を設定したいグループ番号に合わせます。(図 9参照)



2. チャンネル番号を設定する

次にチャンネル設定スイッチの矢印を設定したいチャンネル番号に合わせます。(図10参照)



ご注意

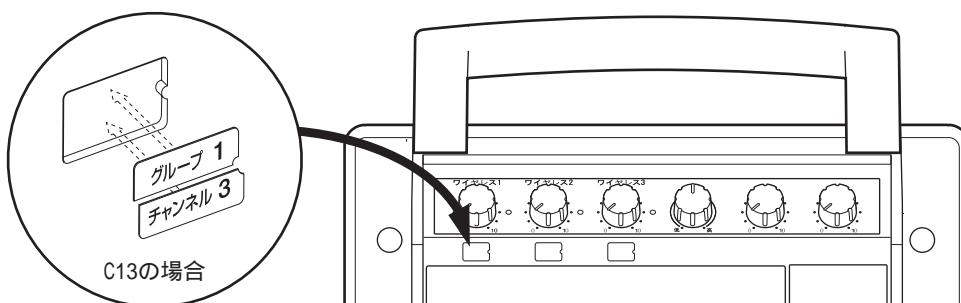
アンテナ受信表示灯が赤色に点滅する場合は、周波数設定が正しくおこなわれていないこと(13頁の受信周波数表にないグループ、チャンネルに設定している)を表しています。再度、周波数設定をしてください。

3. 収納部ふたを締め、チャンネル表示ラベルを貼る

- ・元どおりに収納部ふたを取り付けてください。
- ・設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベル(付属)をワイヤレスマイク音量調節つまみの下部に貼ってください。(図11参照)

図 11

設定したグループ、
チャンネルと
同じ表示ラベルを貼る



C13の場合

お願い

本機のワイヤレスチューナー部は収納部内にありますのでチャンネル表示ラベルを貼って頂き、外部より周波数設定を確認できるようにしてください。

ご注意.

受信機とマイクは同じ周波数(グループ及びチャンネル)に設定してください。

同時に使用するマイクは全て同じグループにして全て違うチャンネルに設定してください。

(13頁の受信周波数表を参照)

1ヶ所で同時に使用できるチャンネル数は13頁のグループ/チャンネル番号について、の項を参照してください。

ワイヤレスアンプとワイヤレスマイクの距離は15m以内で使用してください。なお環境条件によっては短くなります。

同じ周波数の妨害電波、高周波を使う機器が近くにないことを確認してください。やむをえず雑音源の近くでご使用になる場合は、ワイヤレスマイクと本機の距離は約2m～10mの距離でご使用ください。なお、2m以内に近づくと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などが発生することがあります。

ワイヤレスマイクを2本以上ご使用の場合は、マイクロホン同士は50cm以上離してください。他の受信機へ混信することがあります。

300MHz帯ワイヤレスシステムについて

グループ / チャンネル番号について(下記文中のチャンネル数は本機を複数台使用の場合を含みます。)

同一場所で、複数のマイクを同時に使用する場合は1つのグループに統一します。
(グループ1~4の中から1つのグループを選びます。)

- ・グループ1~3の中から1つのグループを選んでシステムを組めば、最大4波まで使用できます。
- ・グループ4は1波使用できます。

周波数一覧表にないグループ / チャンネル番号に設定すると、受信表示灯が点滅し受信できません。必ず周波数一覧表を見て設定してください。

受信周波数表

周波数 (MHz)	グループ / チャンネル番号			
	グループ	グループ	グループ	グループ
322.025			C31	
322.050	C11			
322.075		C21		
322.100	C12			
322.125		C22		
322.150			C32	
322.250	C13			
322.275		C23		
322.300				C41
322.325			C33	
322.350	C14			
322.375		C24		
322.400			C34	

チャンネル呼称について

図12 例

C	1	3	(a)300MHz帯を表わす
⋮	⋮	⋮	(b)グループ番号を表わす
(a)	(b)	(c)	(c)グループ内のチャンネル番号を表わす

グループ / チャンネル番号の設定例

図13 使用するワイヤレスマイクのグループ / チャンネル番号が「C32」の場合

グループ設定スイッチの矢印を「3」の位置にまわす

チャンネル設定スイッチの矢印を「2」の位置にまわす

ナローポジションについて

グループ設定スイッチを「ナロー」側でグループ番号を設定する場合。

グループ設定スイッチ

ふいつら

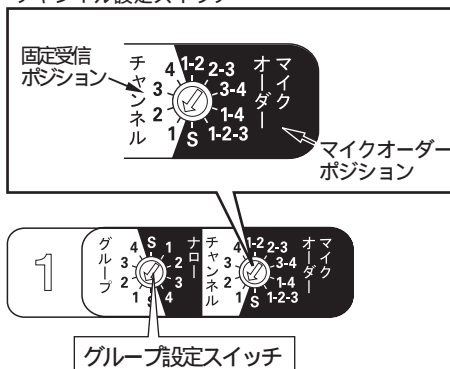
ナローポジション (狭い)

- ・本機を使用中に、近隣で使用するワイヤレスマイクが混信するとき、または混信の恐れがあるときに設定してください。受信感度を抑え、混信を防ぐことができます。

マイクオーダーについて

本機は1本のマイクに対して専用のチャンネルを固定して受信する設定と、任意の複数チャンネルを選択して受信する「マイクオーダー」の設定が可能です。

図 14 チャンネル設定スイッチ



マイクオーダーのチャンネル組合せ表

グループ設定スイッチ チャンネル設定スイッチ	1	2	3
マイクオーダー ポジション	1-2 C11 C12	2 C21 C22	3 C31 C32
	2-3 C12 C13	2 C22 C23	3 C32 C33
	3-4 C13 C14	2 C23 C24	3 C33 C34
	1-4 C11 C14	2 C21 C24	3 C31 C34
	1-2-3 C11 C12 C13	2 C21 C22 C23	3 C31 C32 C33
S	C11 C12 C13 C14	C21 C22 C23 C24	C31 C32 C33 C34

「マイクオーダーポジション」とは？

- ・チャンネル設定スイッチをマイクオーダーポジションに設定しますと、グループ内の複数(2~4)チャンネルのワイヤレスマイクを受信することができます。(図14参照)
- ・最大4チャンネルの受信が可能です。最初に使用(電源スイッチ「ON」)したワイヤレスマイクのチャンネルを優先し、受信します。(図15参照)
- ・受信中マイクの使用が終わり(電源スイッチ「OFF」)次第、設定されたチャンネルのマイクが受信可能になります。(図15参照)
- ・受信可能なチャンネルの組み合わせは上記のマイクオーダーのチャンネル組合せ表をご覧ください。またグループの設定は「1、2、3」のいずれかに設定してください。「4/S」には設定しないでください。

図 15 マイクオーダー運用例

・グループスイッチの設定.....1
(または2、3のいずれか)

・チャンネルスイッチの設定.....3-4
(または1-2、2-3、1-4、1-2-3、Sのいずれか)

① ワイヤレスマイク(C13)を受信中

② ワイヤレスマイク(C13)を受信中
ワイヤレスマイク(C14)は使用不可

③ ワイヤレスマイク(C13)は使用終了
ワイヤレスマイク(C14)は使用可能

ご注意..

別売ワイヤレスチューナーユニット組込時にマイクオーダーポジションでチャンネルを設定する場合は、両チューナーのチャンネル番号が互いに重複しないようにご注意ください。

- ・チャンネル番号が互いに重複する組み合わせ例：「1/1-2」「2/2-3」「1-2/2-3」「2-3/3-4」など
- ・正しいチャンネル番号組み合わせ例：「1/2-3」「2/1-4」「3/1-2」「1-2/3-4」「2-3/1-4」など(必ずチャンネル番号が互いに重複しない組み合わせでご利用ください。)

別売ワイヤレスチューナーユニットの取付方法

本機は別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を追加で2台組み込むことができます。取付は販売店または、最寄りのユニパック営業所にご相談ください。

1. 収納部ふたを開ける

ふたストッパーを下向きに押さえ、収納部ふたを手前に開けてください。内部にAC電源コード、乾電池収納部、蓄電池収納部があります。7頁の「収納部ふたについて」をご覧ください。

2. チューナーカバーをはずす

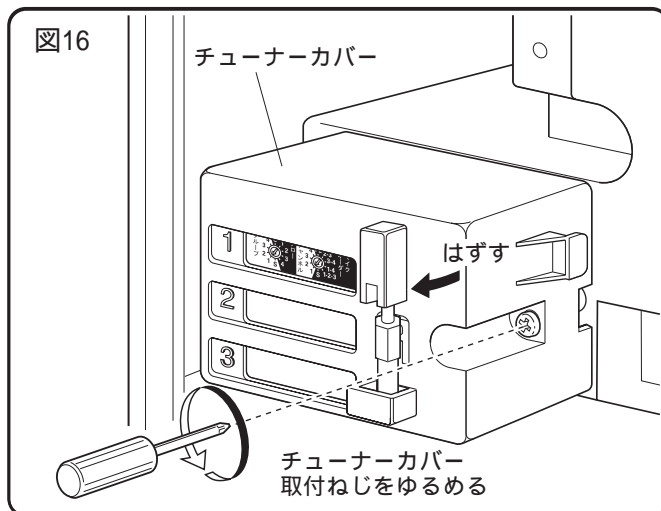
本機のチューナーカバーの取付ねじをゆるめ、チューナーカバーを右図の矢印の方向に取りはずしてください。

(図16参照)



警告

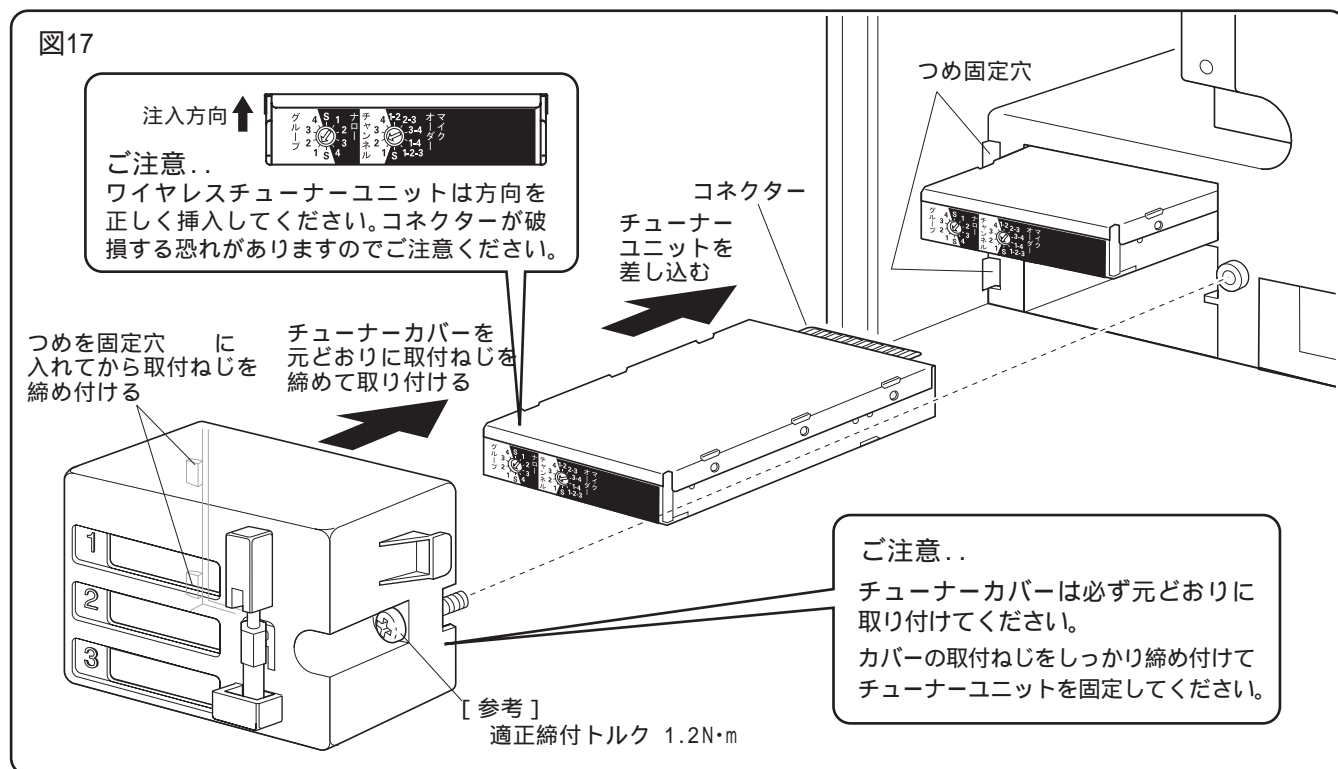
ご使用中は、感電の恐れがありますので、取付作業をおこなわないでください。作業時は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。



3. ワイヤレスチューナーユニットを組み込む

ワイヤレスチューナーユニットを本機のワイヤレスチューナーユニット挿入口に挿入しチューナーカバーを元どおりに取り付け、取付ねじを締め付けて固定してください。(図17参照)

図17



4. 周波数を設定する

・ワイヤレスチューナーユニットは出荷時にグループ/チャンネル番号を「C11」に設定しています。周波数設定を切り換える場合は、11頁の「周波数設定のしかた」、またはワイヤレスチューナーユニットの取扱説明書をご覧ください。

5. 収納部ふたを締め、チャンネル表示ラベルを貼る

・元どおりに収納部ふたを取り付けてください。
・設定したグループ、チャンネルと同じ表示ラベル(チューナーユニットに付属)を本機後面のワイヤレスマイク音量調節つまみの下部に貼ってください。11頁の「周波数設定のしかた」をご覧ください。

操作のしかた



注意 電源を入れる前には各音量を最小にする。突然大きな音がでて聴力障害などの原因になることがあります。

ワイヤレスマイクの使い方

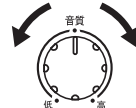
3. ワイヤレスマイクの音量を調節する

ワイヤレスマイクの音量をワイヤレスマイク1音量調節つまみで調節してください。



4. 音質を調節する

ワイヤレスマイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。



すべての入力に共通して音質が調節されます。

2. ワイヤレスマイクの電源スイッチを「ON」にする

アンテナ受信表示灯が赤色から緑色の点灯に変わります。

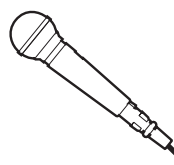


1. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。アンテナ受信表示灯は赤色に点灯します。(別売のワイヤレスチューナーユニットSU-350を増設していない箇所の受信表示灯は点灯しません。)

有線マイクの使い方

1. マイクプラグをマイク入力ジャックに接続する



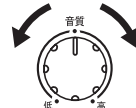
3. マイクの音量を調節する

マイクの音量をマイク音量調節つまみで調節してください。



4. 音質を調節する

マイク放送の音質を音質調節つまみで調節してください。

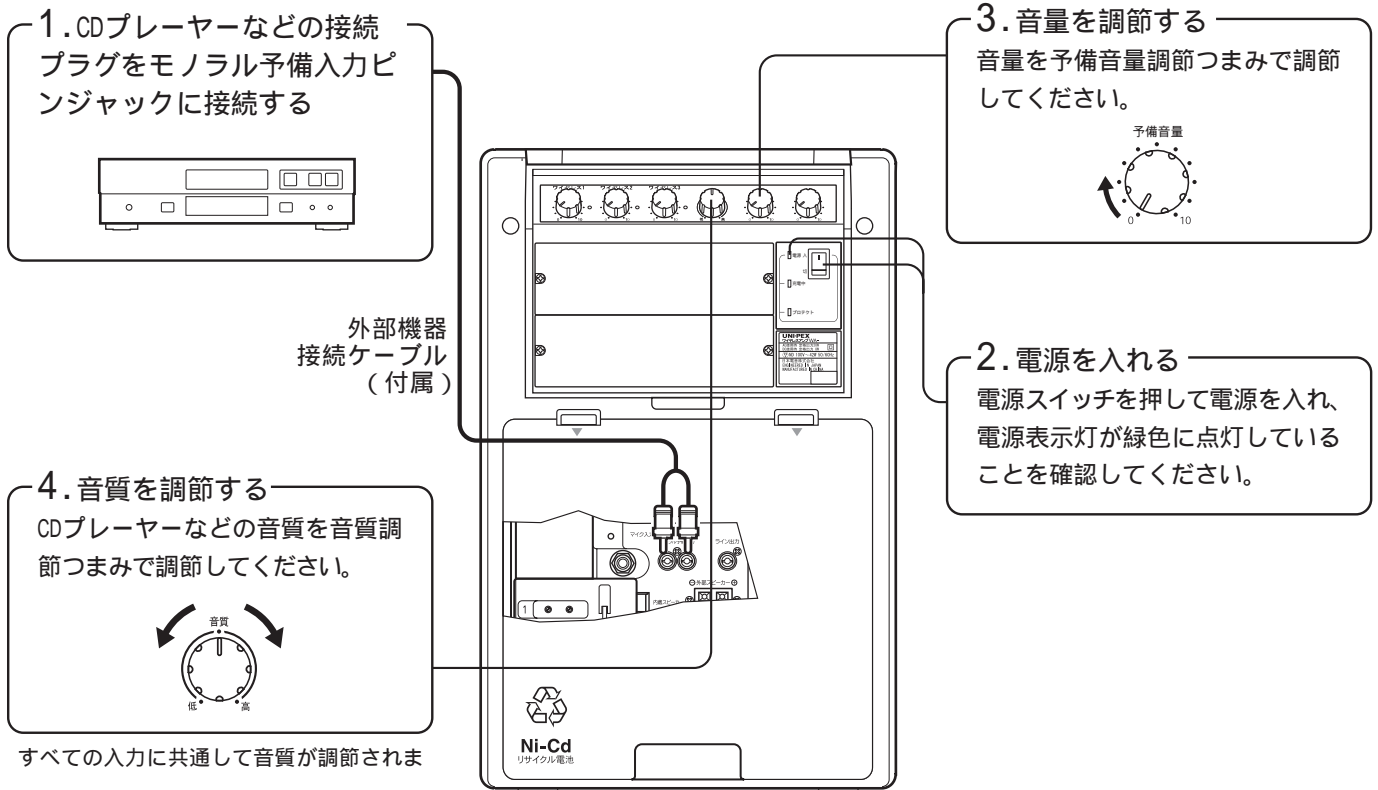


すべての入力に共通して音質が調節されます。

2. 電源を入れる

電源スイッチを押して電源を入れ、電源表示灯が緑色に点灯していることを確認してください。

予備入力に接続されたCDプレーヤーなどの放送をするとき

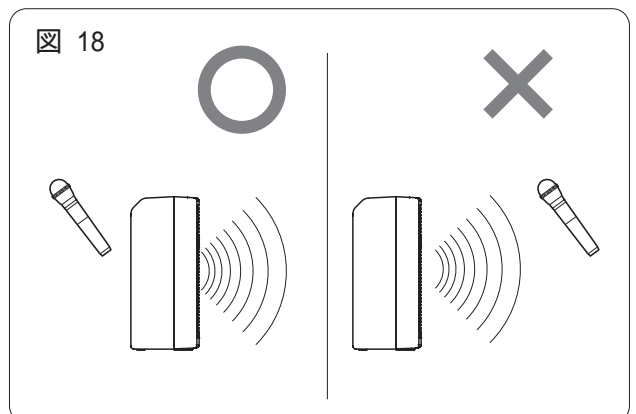


ご注意... AC電源コードやその他の接続コードが正しく接続されているか確認してください。
各音量調節つまみは反時計回り最小の位置に合わせておいてください。

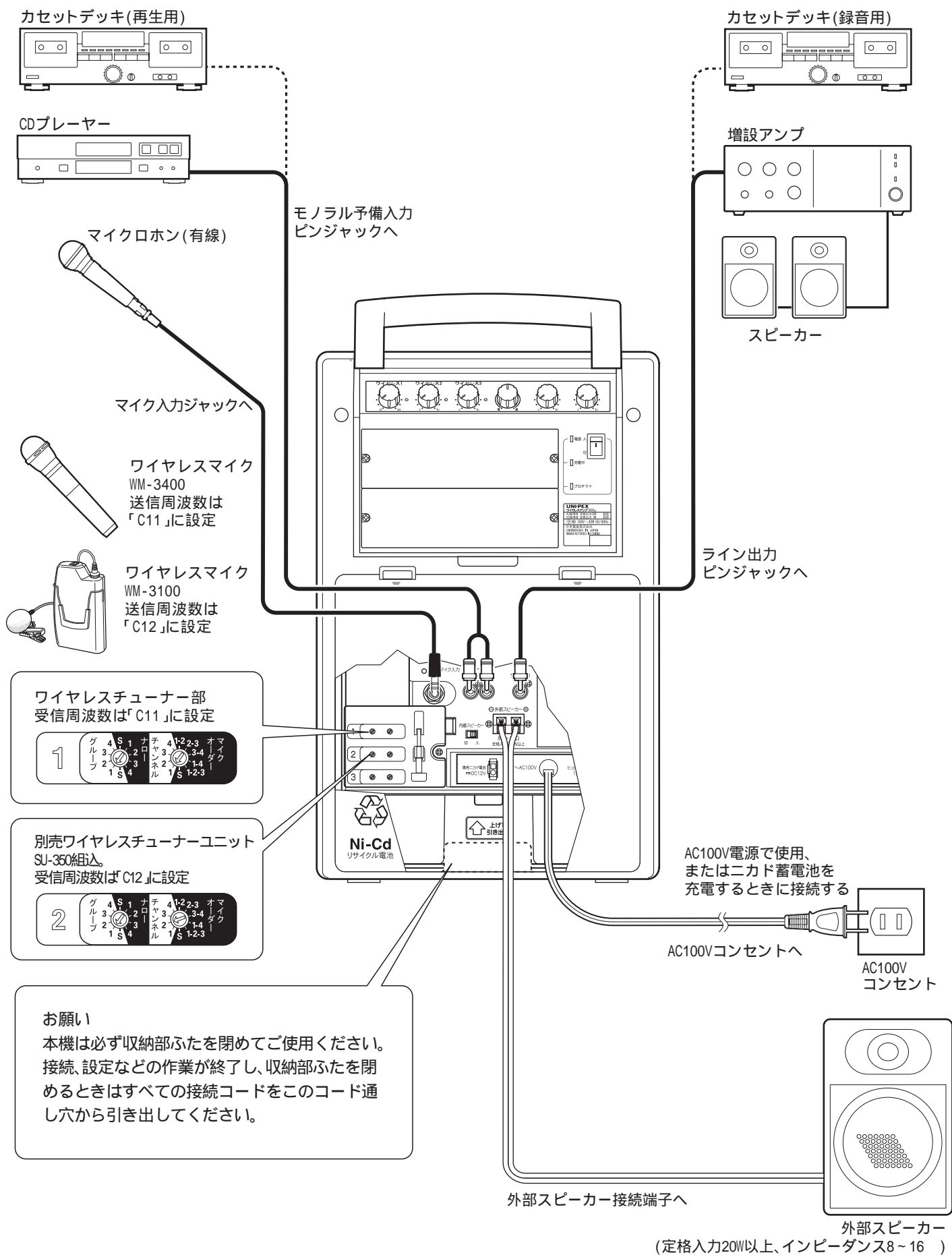
ハウリングとデッドポイントについて

ワイヤレスマイクや有線マイクをスピーカーの真正面近くで使用したり、音量を上げすぎたりすると「キーン」というハウリングが起きます。ハウリングが起きた場合は、ただちに音量を下げるか、マイクの位置をスピーカーの方向からそらすと止まります。(図18参照)

ワイヤレスマイクを移動しながら使用していると、突然音がなくなる位置があります。これをデッドポイントといい、ワイヤレスマイクと本機内蔵アンテナの位置と壁、障害物などの位置関係により生ずるもので故障ではありません。本機的位置、あるいはワイヤレスマイクの位置を変えるとなおります。



接続例



点検方法

ほんのちょっとしたことで正常に動作せず故障かな?と思うことがあります。次の要領で点検してみてください。

警告

次の方法で点検されても正常に動作しないとき、または使用中に急に異常が発生したときは電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙などの異常が無いことを確認し、販売店などへご連絡ください。

本機は絶対に分解しないでください。感電の恐れがあります。修理は必ず販売店などにご依頼ください。

症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
	乾電池は入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	電源スイッチは入っていますか。	電源スイッチを入れてください。
	各音量調節つまみが絞られていませんか。	各音量を適当な音量に調節してください。
全く動作しない (プロテクト表示灯が点灯)	乾電池または蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	外部スピーカー接続端子が短絡していませんか。	外部スピーカー及びその接続を確認してください。
	本機の増幅部の温度が上昇していませんか。	電源スイッチを切り温度を下げてください。温度が上昇する原因を確認してください。
有線マイクの音声のでてこない	マイクのトークスイッチは入っていますか	マイクのトークスイッチを入れてください。
	マイクプラグは確実に差し込まれていますか。	確認してください。
	マイクは正常ですか。	他のマイクと交換してください。
	マイク音量調節つまみが0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
接続機器の音がおかしい または小さい	接続機器のインピーダンスは合っていますか。	確認してください。
	DC電源で使用の場合乾電池またはニカド蓄電池が消耗していませんか。	乾電池の場合は全部新しい電池に取り換え、ニカド電池の場合は充電をおこなってください。
	接続機器及び本機の予備音量調節つまみが0位置になっていませんか。	適当な音量に調節してください。
内蔵スピーカーの音がない	内蔵スピーカー切換スイッチがOFF位置になっていませんか。	確認してください。
外部スピーカーの音がない	正しく接続されていますか。	確認してください。

ワイヤレスチューナーユニット部

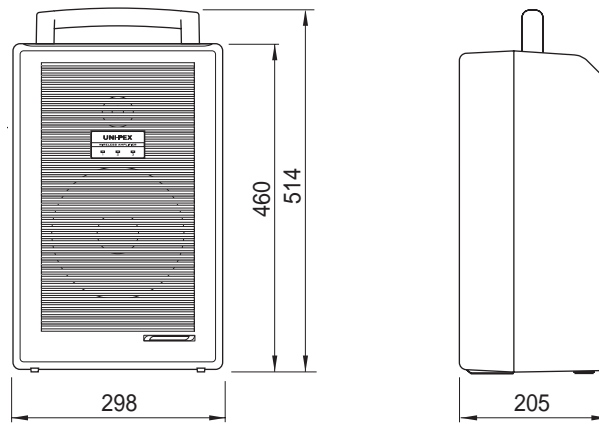
症 状	点 検 項 目	対 策
全く動作しない	電源が接続されていますか。	電源プラグをコンセントに差し込んでください。
	電源表示灯が緑色に点灯していますか。	電源スイッチを入れてください。
ワイヤレスマイクの 音声のでてこない	マイクの電源スイッチは入っていますか	マイクの電源スイッチを入れてください。
	マイクの電池が入っていますか。	確認と同時に電池の消耗も確認してください。
	マイクとワイヤレスチューナー部のグループ/チャンネル番号の設定は同じですか。	グループ/チャンネル番号を確認してください。
	デッドポイントの位置ではありませんか。	確認してください。
	ワイヤレスマイク音量調節つまみが絞られていませんか。	適当な音量に調節してください。

定 格

品 番	WA-361A
使 用 電 源	AC100V 50/60Hz、単一乾電池(R20P/LR20)×8、専用ニカド蓄電池
定 格 消 費 電 力	42W (電気用品安全法による測定方法に基づく)
消 費 電 流	AC0.49A (20W出力時)
	DC0.96A (8W出力時)
定 格 出 力	AC時: 20W, DC時: 8W
ひ ず み 率	5% (1kHz 定格出力時)
周 波 数 特 性	70Hz ~ 12kHz (偏差 ± 3dB)
音 質 調 節	4kHzに 於いて + 5dB / - 10dB (1kHz基準) 調節器付
入 力 感 度 及 び イ ン ピ ー ダ ン ス	マイク : 約 - 56dBV 600 不平衡 音量調節器付
	予 備 : 約 - 22dBV 10k 不平衡 音量調節器付
	チューナー部入力: 約 - 26dBV 10k 不平衡
信 号 対 雑 音 比	70dB以上
外 部 接 続 ス ピ ー カ ー	8 ~ 16 許容入力 20W以上
ラ イ ン 出 力	0dBV 1k 不平衡
ア ン テ ナ 方 式	ダイポールアンテナ (内蔵)
動 作 表 示	電源: 発光ダイオード(緑) 減電圧時(赤) 充電: 発光ダイオード(緑) プロテクト表示: 発光ダイオード(赤) アンテナ受信表示: 待機時(赤) 受信時(緑) 設定外時(赤/点滅)
チューナー部	
受 信 周 波 数	322.025MHz ~ 322.150MHz、322.250MHz ~ 322.400MHz (25kHz間隔13波)
出 荷 時 設 定 受 信 周 波 数 (グループ/チャンネル番号)	322.050MHz (C11)
受 信 方 式	PLL制御スーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	20dBμV
使用温度範囲	
外 装	ケース(ABS樹脂): マンセルN7.5 近似色 ライトグレー、保護カバー(PC樹脂): ライトブルー系クリアー
寸 法	幅298mm 奥行205mm 高さ460mm
質 量	9.2 kg (乾電池、蓄電池を除く)
付 属 品	取扱説明書(保証書付)、電池ケース1、マイク収納ケース1、設定用ドライバー1、チャンネル表示ラベル1、外部機器接続用ケーブル1
適 合 品	ニカド蓄電池(WBT-2000)、ワイヤレスチューナーユニット(SU-350)、 CDプレーヤーユニット(CDU-103)、SDレコーダーユニット(SDU-200)

外觀寸法図

(単位mm)



製造元 日本電音株式会社
発売元 ユニペックス株式会社